

砂の夢

作詞 J'Soul (浅羽一)

気が狂いそうな夜にまで 涙を堪えて月を見たのは
一人の淋しさを認めるわけにはいかなかったから
誰もいない朝を迎えて また同じ日々を繰り返すのは
僕らは何も変わってないと思ひ込みたかったから
いつまでも記憶にしがみついたのは 都合の良い思い出でしか
もう君に触れられないことを知っているから
それは声に出しては崩れそうな想い
それは胸に秘めても伝わらぬ言葉
伸ばした指でしか感じられぬ事実
今の僕ならほんの瞬き程度の一瞬のために
未来の全てを差し出せるのに

どうすれば上手くいったのか どれだけ考えても分からずに
自分には奇蹟を起こす力はないと思ひ知らされた
本音と建前を比べて 心にあるものは一つなのに
大切なものを隠しやりたくもない役ばかり演じる
後戻り出来る境界線は遠く 後ろ向きには歩けもせず
それならばいっそ幸せな過去で眠りたい

■繰り返し

せめて涙の一滴 ^{ひとしずく} 世界の何処かに君の欠片が落ちているなら
それを求めて旅に出れるのに…

■繰り返し